

障害のある人の人権問題（青票）

問 11 あなたの身近に心身に障害のある人がいますか(又はこれまでにいたことがありますか。) 次のうちからあてはまる番号すべてに○をつけてください。

	回 答 者 数	対総回答者数比
自分自身又は家族などの身近な親族	325	34.32%
友人、恋人など親しい人	72	7.60%
学校	93	9.82%
自分の職場	142	14.99%
仕事関係（自分の職場以外）	79	8.34%
地域や近所	280	29.57%
趣味などの活動の場	43	4.54%
身近にいたことはない	246	25.98%

(回答者数 947人 回収数比 92.75%)

問 12 あなたは、次の(A)～(E)それぞれの障害がある人について、障害の特性（病状や発症原因など）を知っていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

	よく知っている	聞いたことはある	知らない	無効・無回答
(A) 手足に障害がある人	328 32.16%	276 27.06%	307 30.10%	109 10.69%
(B) 内臓の機能に障害のある人	208 20.39%	291 28.53%	399 39.12%	122 11.96%
(C) 事故や病気により脳の機能に障害のある人	242 23.73%	338 33.14%	328 32.16%	112 10.98%
(D) 精神の障害（心の病気）がある人	265 25.98%	346 33.92%	292 28.63%	117 11.47%
(E) 知的な発達に障害のある人	300 29.41%	349 34.22%	262 25.69%	109 10.69%

有効回答：回収数比 (A)911人：89.23% (B)898人：87.95% (C)908人：88.93% (D)903人：88.44%
(E)911人：89.23%

問 13 (A)～(E)それぞれの障害がある人について、次の(ア)～(ウ)の場合において、あなたはどのように思いますか。あなたの意見に最も近いものの番号1つに○をつけてください。

(ア) 一緒に職場で働くこと

	全く気にならない	少し不安がある	抵抗感がある	わからない	無効・無回答
(A) 手足に障害がある人	348 34.12%	408 40.00%	26 2.55%	138 13.53%	100 9.80%
(B) 内臓の機能に障害のある人	344 33.73%	353 34.61%	27 2.65%	188 18.43%	108 10.59%
(C) 事故や病気により脳の機能に障害のある人	167 16.37%	468 45.88%	90 8.82%	183 17.94%	112 10.98%
(D) 精神の障害(心の病気)がある人	100 9.80%	482 47.25%	158 15.49%	175 17.16%	105 10.29%
(E) 知的な発達に障害のある人	158 15.49%	465 45.59%	109 10.69%	185 18.14%	103 10.10%

有効回答：回収数比 (A)920人：90.11% (B)912人：89.32% (C)908人：88.93% (D)915人：89.62%
(E)917人：89.81%

(イ) 同じマンション・アパートや近所づきあいなど

	全く気にならない	少し不安がある	抵抗感がある	わからない	無効・無回答
(A) 手足に障害がある人	601 58.92%	203 19.90%	8 0.78%	110 10.78%	98 9.61%
(B) 内臓の機能に障害のある人	536 52.55%	220 21.57%	11 1.08%	145 14.22%	108 10.59%
(C) 事故や病気により脳の機能に障害のある人	376 36.86%	345 33.82%	33 3.24%	155 15.20%	111 10.88%
(D) 精神の障害(心の病気)がある人	181 17.75%	459 45.00%	130 12.75%	144 14.12%	106 10.39%
(E) 知的な発達に障害のある人	308 30.20%	394 38.63%	64 6.27%	146 14.31%	108 10.59%

有効回答：回収数比 (A)922人：90.30% (B)912人：89.32% (C)909人：89.03% (D)914人：89.52%
(E)912人：89.32%

(ウ) 交際や友達づきあいなど

	全く気にならない	少し不安がある	抵抗感がある	わからない	無効・無回答
(A) 手足に障害がある人	491 48.14%	272 26.67%	37 3.63%	114 11.18%	106 10.39%
(B) 内臓の機能に障害のある人	409 40.10%	311 30.49%	40 3.92%	149 14.61%	111 10.88%
(C) 事故や病気により脳の機能に障害のある人	250 24.51%	396 38.82%	99 9.71%	158 15.49%	117 11.47%

	全く気にならない	少し不安がある	抵抗感がある	わからない	無効・無回答
(D) 精神の障害（心の病気）がある人	155 15.20%	421 41.27%	174 17.06%	156 15.29%	114 11.18%
(E) 知的な発達に障害のある人	218 21.37%	399 39.12%	130 12.75%	161 15.78%	112 10.98%

有効回答：回収数比 (A)914人：89.52% (B)909人：89.03% (C)903人：88.44% (D)906人：88.74%
(E)908人：88.93%

問 14 国は企業に対して、障害のある人を一定の割合で雇用することを義務付けています。その義務を果たしていない企業がありますが、あなたはどのようにお考えですか。あなたの意見に最も近いものの番号1つに○をつけてください。

	回 答 者 数	対総回答者数比
働くことは、人間の権利であるから、どのような理由があっても、障害のある人の雇用を進めるべきである。	187	18.33%
トイレなどの施設の整備や、勤務など特別に配慮することが可能な範囲で、積極的に雇用を進めるべきである。	592	58.04%
トイレなど施設の整備や、勤務など特別に配慮することが負担ならば、雇用できなくても仕方がない。	117	11.47%
障害のない人と同様に働けないならば、わざわざ雇う必要はない。	21	2.06%
無効・無回答	103	10.10%

(回答者数 917人 回収数比 89.81%)

青票の問 11 から問 14 までは、障害のある人の人権問題について質問をした。

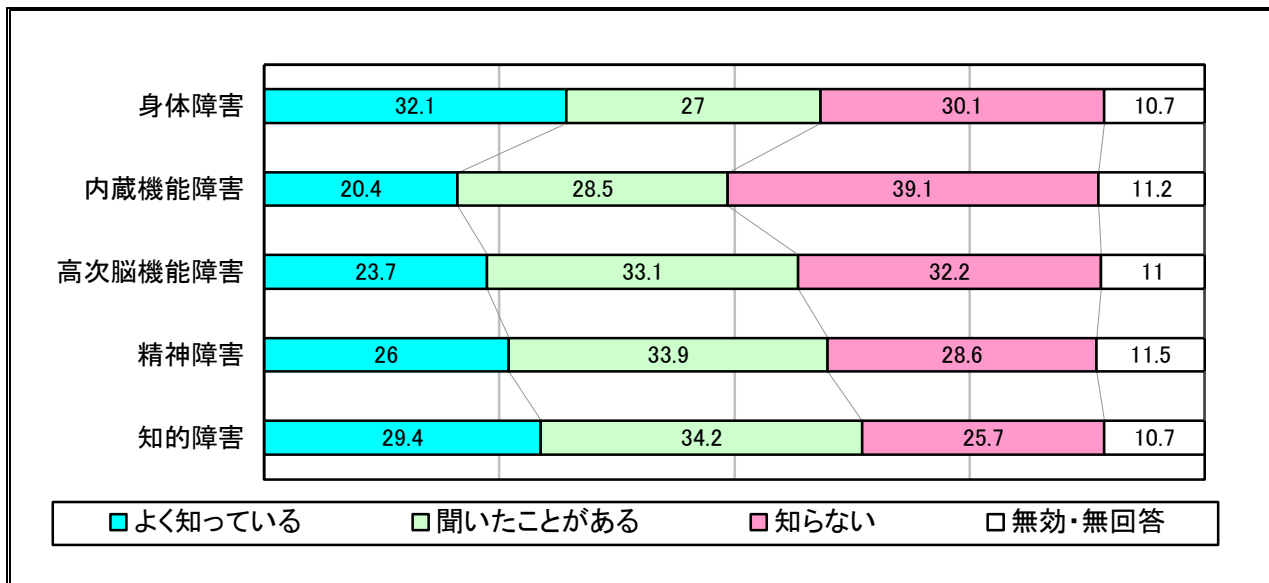
■ 日常体験

問 11 では、「あなたの身近に障害のある人がいますか」という質問を行い、日常的な体験（当事者との接触）を聞いた。

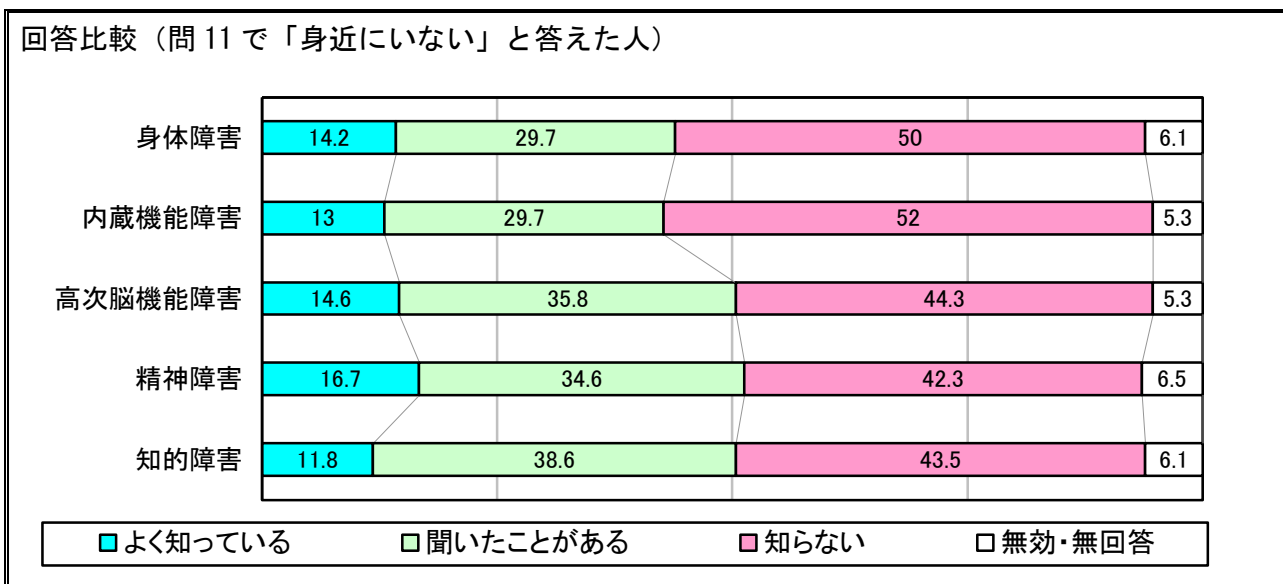
身近に「いる」と答えた人は74%であった。

■ 障害に対する理解度

問 12 では、「あなたは、次のそれぞれの障害がある人について、障害の特性を知っていますか。」という質問で、「手足に障害のある人（身体障害）」「内臓の機能に障害のある人（内臓機能障害）」「事故や病気により脳の機能に障害のある人（高次脳機能障害）」「精神の障害がある人（精神障害）」「知的な発達に障害のある人（知的障害）」のそれぞれについて、障害に対する理解度を調べた。



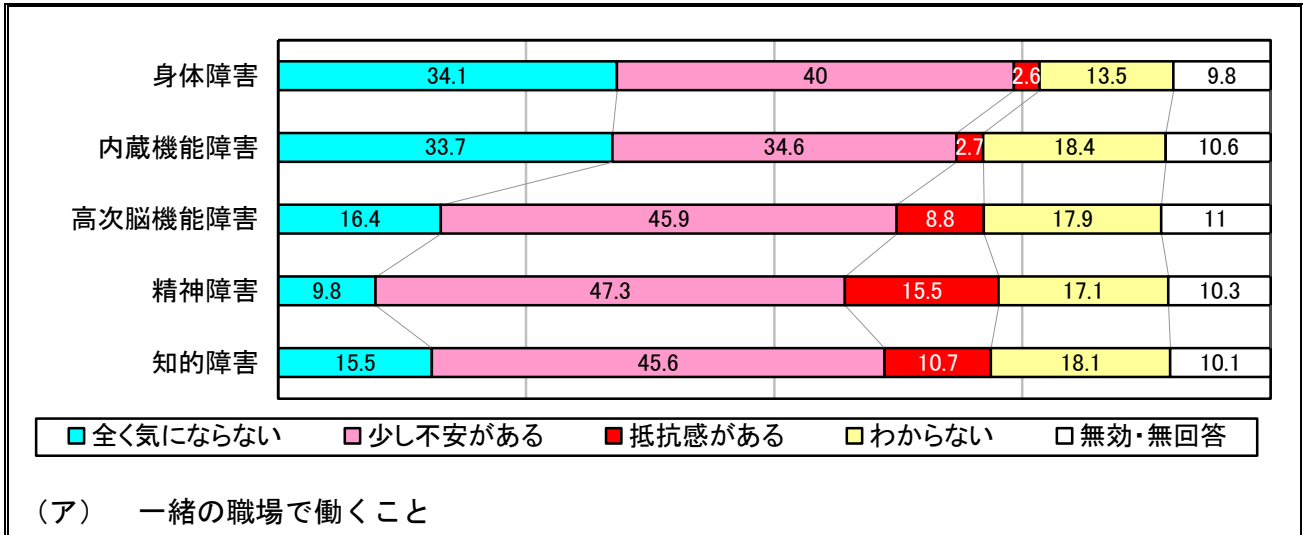
いずれの障害においても、認知度はほぼ50%を超え、「知らない」という回答を大きく上回った。



問 11 で心身に障害のある人が「身近にいたことはない」と答えた人の、回答割合を見てみると、「よく知っている」が減り、「知らない」という意見が増えており、日常的な体験（接触）と理解度の関係性が推測できる。

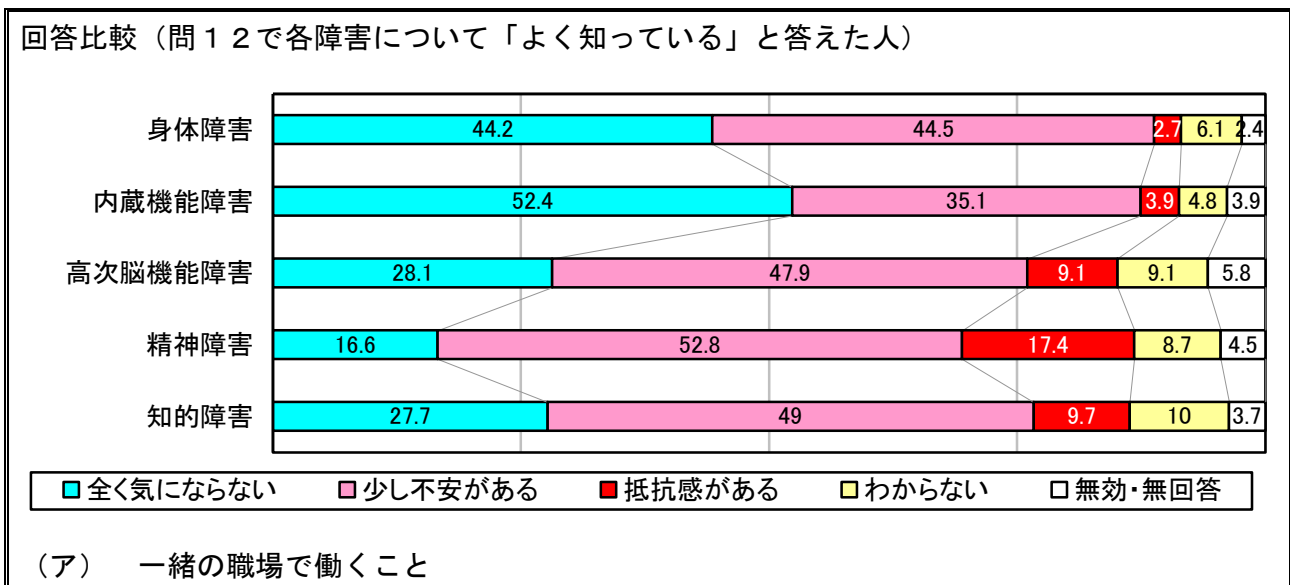
■ ノーマライゼーション（※1）

問13では、「(ア) 一緒に職場で働く」、「(イ) 同じマンション・アパートや近所づきあい」、「(ウ) 交際や友達づきあい」という、日常生活の場面別におけるノーマライゼーションの意識を尋ねる質問とした。



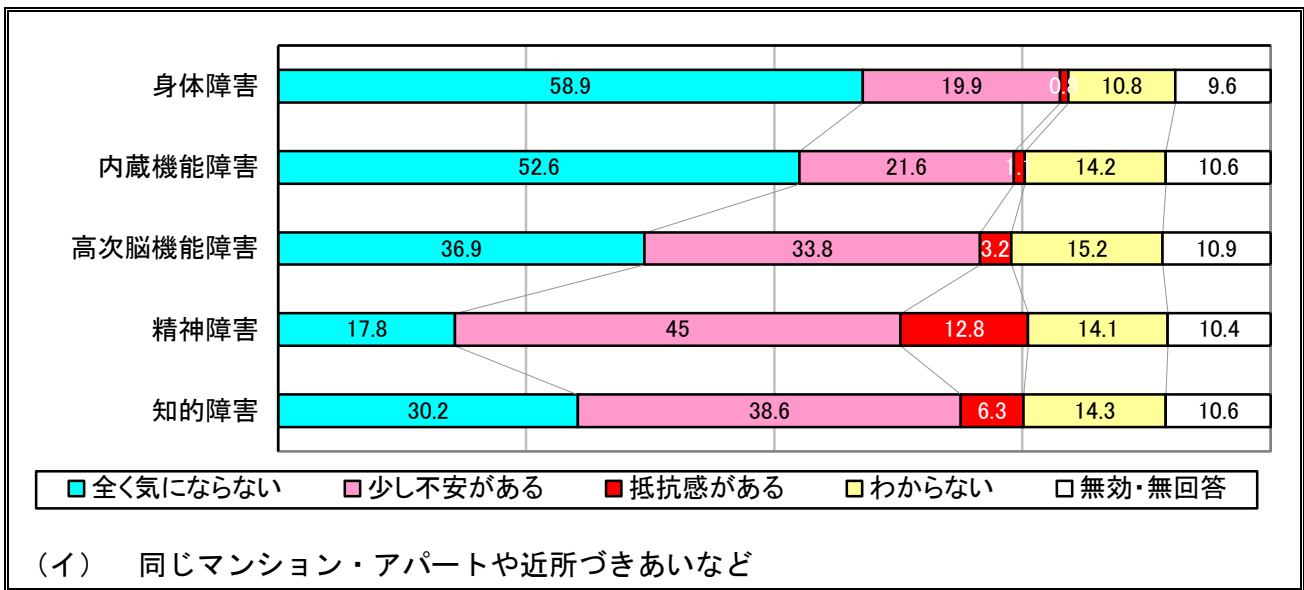
「(ア) 一緒に職場で働くこと」については、「手足に障害がある人」(身体障害)、「内臓の機能に障害のある人」(内蔵機能障害)がいずれも、「全く気にならない」が33%程度、「抵抗感がある」が2.5%程度とほぼ同じ水準であった。

また、「事故や病気により脳の機能に障害のある人」(高次脳機能障害)、「知的な発達に障がいのある人」も同水準の数値となり、「精神の障害(心の病気)がある人」(精神障害)は、「全く気にならない」が最も低く、「抵抗感がある」が最も高い結果となった。



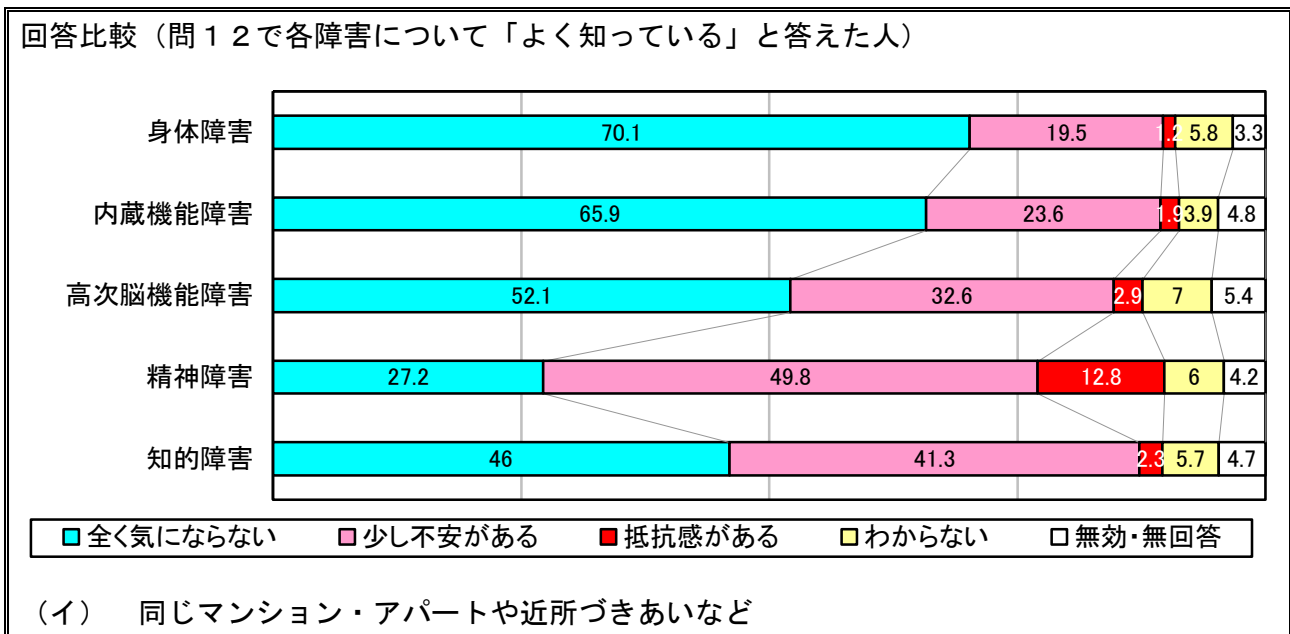
問12で、「手足に障害がある人」、「内臓の機能に障害のある人」、「事故や病気により脳の機能に障害のある人」、「精神の障害(心の病気)がある人」、「知的な発達に障害のある人」それぞれの障害につい

て、「よく知っている」と答えた人の回答を見てみると、すべての障害の場合において、「全く気にならない」の値が増えている。

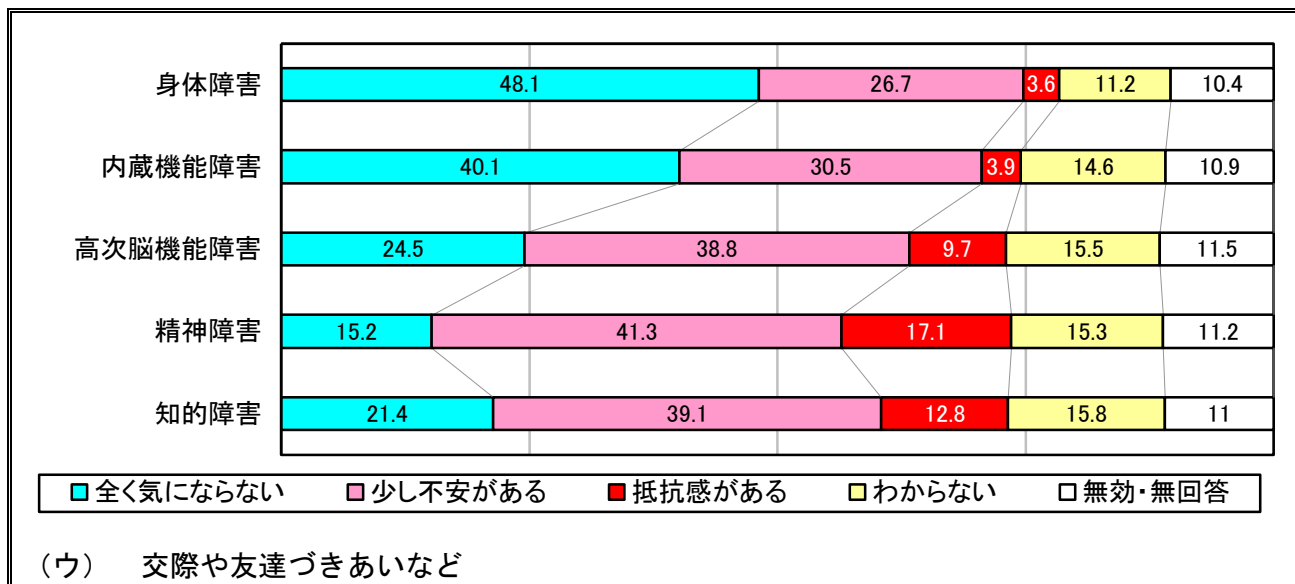


「(イ) 同じマンション・アパートや近所づきあい」の場面においても、ノーマライゼーションの意識は、「手足の障害がある人」と「内臓の機能に障害のある人」、「事故や病気により脳の機能に障害のある人」と「知的な発達に障害のある人」がそれぞれ同水準の値となった。

なお、(ア)～(ウ)の場面を比較すると、「(イ) 同じマンション・アパートや近所づきあい」がすべての場面の中で、障害のある人を受け入れる傾向が高い。

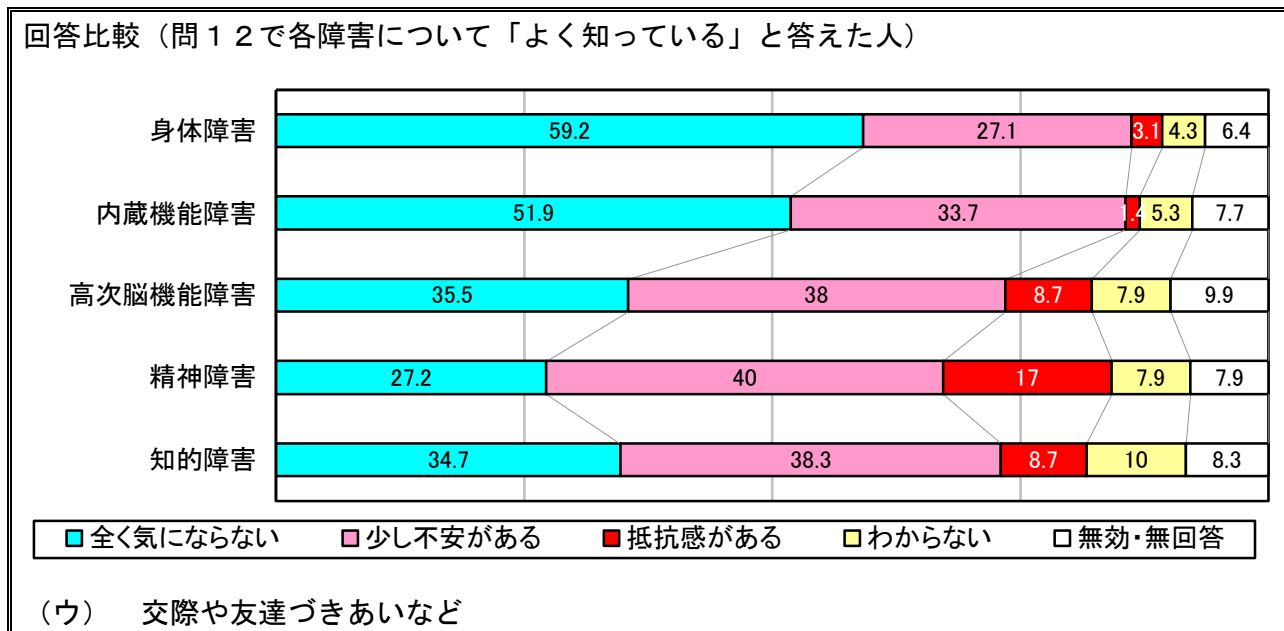


同じマンション・アパートや近所づきあいの場面においても、各障害についてそれぞれ「よく知っている」と答えた人は、高い水準で「全く気にならない」という回答をしている。



「(ウ)交際や友達づきあいなど」の場面においても、ノーマライゼーションの意識は、「手足の障害がある人」と「内臓の機能に障害のある人」、「事故や病気により脳の機能に障害のある人」と「知的な発達に障害のある人」がそれぞれ同水準の値となる傾向が見られる。

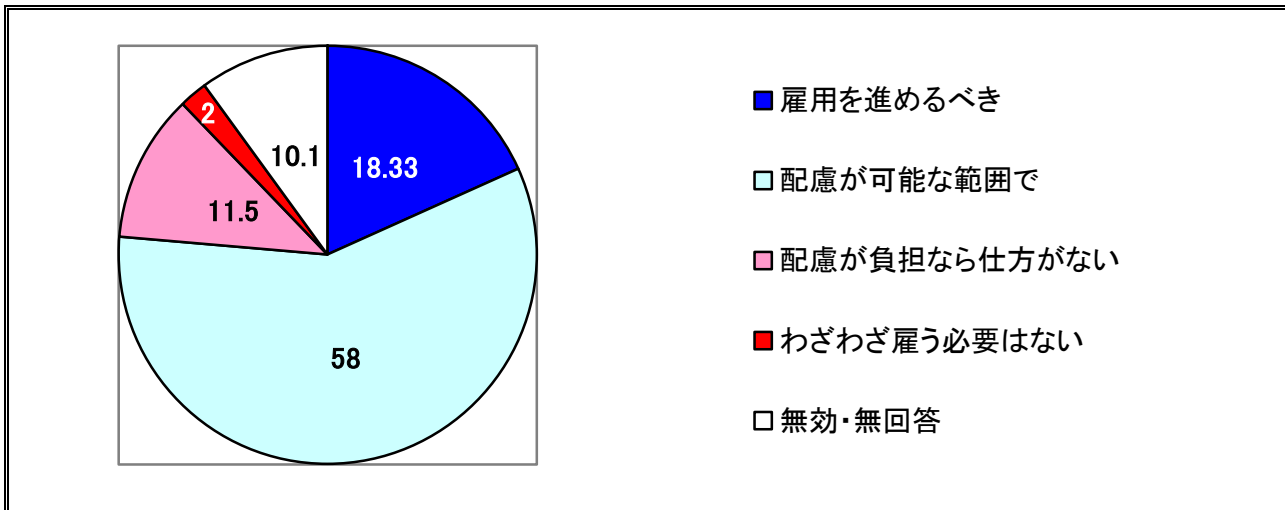
なお、「全く気にならない」という回答では、「(イ) 同じマンション・アパートや近所づきあいなど」より低く、「(ア) 一緒に職場で働くこと」より高い結果となったが、「抵抗感がある」という回答では、「(ア) ~ (ウ) の全ての場面の中で、最も高い結果となった。



交際や友達づきあいなどの場面においても、各障害についてそれぞれ「よく知っている」と答えた人の解答を比較すると、「全く気にならない」の回答比率が高くなっている。

■ 障害のある人の雇用促進について

問 14 では、「障害者の雇用の促進等に関する法律」で定められた法定雇用率の義務について尋ね、障害者雇用に関して、企業はどうあるべきかという意見を調べた。



「働くことは、人間の権利であるから、どのような理由があっても、障害のある人の雇用を進めるべきである」の 18.33%と、「トイレなどの施設の整備や、勤務など特別に配慮することが可能な範囲で、積極的に雇用を進めるべきである」の 58.04%を合わせて、76%の人が、障害のある人の雇用を進めるのは、企業の責任であると考えている結果となった。

※1 ノーマライゼーション

社会とは、本来、障害のある人も、障害のない人も、地域で共に生活し活動するような姿が本来あるべき姿であるという考え方。